殺到する救援物資
全国の仲間が闘争を激励

三池の闘いはいまや全国の仲間たちに支えられた全国的な闘いへと発展している。激励電報をはじめ、慰問品は連日組合本部へ殺到し、加えて各組合からの闘争激励オルグも日を追うにしたがつて激増してきた。職場・地域では、これら仲間たちからの心温まる激励や慰問品を手にして、闘魂は日ましに燃え上つている。

組合本部へ一歩足を踏み入れたとタン、壁という壁に隙間なく貼りめぐらされた、全国の仲間たちからの寄せ書きが目のなかに飛びこんでくる。

寄せ書き、激励電文、陣中見舞の紙がズラリと垂れ下がつている。闘いは三池だけの闘いではないのだという感じが、ひしひしと迫つてくる。

各地域に設けられている地域闘争本部も同様である。

十二月末現在で組合本部の集計によると、慰問品は一六八組合から送られて来た。

団結袋をはじめこれらの慰問品は衣類、日用品、米、餅、醤詰と雑多である。

組合では送られて来た慰問品は整理して各支部に配布、各支部からそれぞれ各地域分会に配られている。

また、地域分会だけでなく、長期療養の入院患者にも配布、思わぬ慰問品を手にして感激した入院中の組合員から、感謝と決意を示した手紙も編集部にはつぎつぎと送られて来ている。

子供たちも勵ます

カンパをしてくれた組合も北は北海道から南は鹿児島まで、全国にまたがつており、国鉄、全逓、教組、専売、全林野、全電工、全建設省労、全司法労、全農林などの官公労から炭労傘下の各支部、別子労、旭相銀労、毎日新聞労、全日通、日本ゴム労、千住製紙労、石原労連、東京水運労、紙パ労、北陸鉄道労、王子製紙労、北越製紙労、日本油脂労をはじめ多くの民間労組からも送られている。

なかには、和歌山県の雑賀小学校からは一年生から六年生まで、クラス単位でお小遣いを節約して貯つてくれたカンパ慰問品もあつた。

東京都世田谷区太子堂町三一一の榊原三絵子ちゃんは手紙のなかに自分の写真とこまつなの種を同封して激励している。

榊原さんの手紙を紹介すると大牟田の皆さん私はよくテレビで炭鉱のことを見ます。でも私にはよく分からないところもありました。（中省）

私はこの手紙と一緒にこまつなの種を同封します。すこしですけど私の心からのプレゼントです。それから六年生ぐらいの皆さま、私に手紙を下さい、遠くのお友だちになりましょう。

私にも仲よしの友だちはたくさんおりますが、みんなぜいたくな家の子ばかりです。でもみんな親切です。炭鉱の皆さんたちも、みんな東京にいる私の友だちのように仲良くいたしましょうね。

という可愛いい励ましの手紙である。

鎖いたつ闘魂

闘いの中で正月を迎えた三池には年末にひきつづき、慰問品はつぎつぎと送られて来て、組合前には整備のため、山と積まれるぐらいである。

（上）宇部から遥々贈られたカンパ餅（中）柏島からも（下）山と積まれたカンパ

"首切り会社"誕生
立て看板や闘争写真展

【三池】三川鉱の正門前にはいま「首切り会社」という立て看板がデンとすえられて、通行く人たちの目を見張らせている。

各支部とも組合指令通り毎日拒否者をつつんで繰込場まで繰込んでいるが、三川支部では拒否者の集会所が組合事務所では手狭またため、支部事務所裏の広場に建坪約三百坪の集会所をつくつた。これに要した費用約十万円も拒否者の人たちのカンパでできあがつたもので、中には約百個の椅子もつくられ、周囲の壁には分会旗がズラリと張られて粘りづよい闘いに備えている。

この団結小屋とともに、正門前には写真のような「首切り会社」の立て看板が立てられたもので、拒否者の怒りがこめられている。

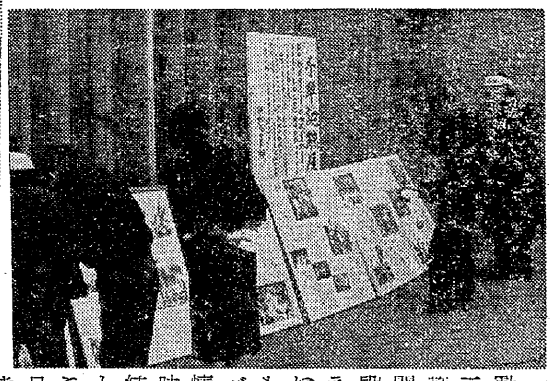
こうして、ここに新たらしく「首切り会社」が誕生したわけである。

また、正門前には〃闘争記録写真展〃もおこなわれており、山ノ上での報告決起大会をはじめ、決起大会など、これまでのかずかずの闘争が、写真におさめられている。

（上）首切り会社の立看板
（右）記録写真展

宇部炭労の仲間からは、団結餅をはるばる三輪車で数回にわたつて来ている。栗田労組では精米カンパに引つづいて職場の中に箱をおき「煙草の一本でも闘う仲間に」と回つたところ、ボール箱一杯に煙草が集まつた。この煙草は直ちに組合へ送られて来た。

こうして、いま全国の仲間たちに支えられて闘いをつづけているが職場や地域では、この温い支援に涙して、鉄壁の団結を誓い合つて首切り白紙撤回目指して闘いをすすめている。



団結駅伝繰広ぐ
宮浦支部行動隊で実施

【三池】宮浦支部行動隊では、去る一月十二日〃団結駅伝〃を実施した。

闘争はいよいよ重大な段階に入つて新年を迎えた。行動隊では年頭にあたり苦しいけれどもこれを乗りこえ、ネバリ強い闘魂と青年の情熱を燃やすという意味で、この時期に〃団結駅伝〃を実施することになつたのである。

この日はちょうど火曜日の二十四時間スト。

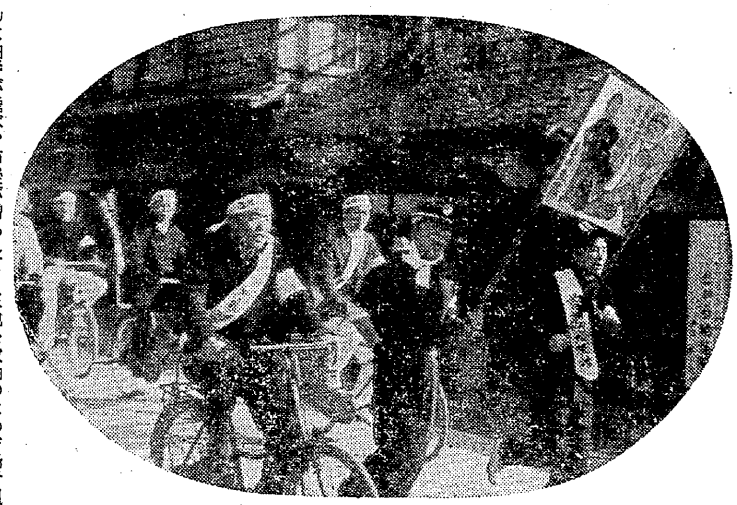
まず、行動隊を支隊ごとに分け六チームを編成、一チーム選手十八名を繰出して行つた。

コースは支部前―大地評―本所前―宇宙館前―新道四ツ角―臼井―萩尾―上高田―（東谷）―上高田―馬渡―上宮―宮浦支部の十一コースで延十三・一粁。

〃団結駅伝〃と銘記されてあるように、普通の駅伝競走とは内容もガラリと変り、各選手はそれぞれ「団結」「首切り反対」などいろんなプラカードを掲げて走つたりまたコースによつては、選手も二名宛出場し、仮装をこらして団結力で首切り元凶を追いかける組や、労働者と商人が提携して走つたりキバツな仮装で出場した。

一方、応援団は「首切り絶対反対」のタスキをかけ、自転車のうしろには「安保改定反対」「首切り反対」「勤評反対」など染抜いた桃太郎旗をなびかせ、一団となつて各チーム選手の後から応援をつづけたが、駅伝によつてさらに団結を深めるとともに、沿道の声援者に対しての反対闘争支援を訴えながらすすんだ。

沿道では、この思わぬ駅伝にさかんに拍手が飛び、声援が贈られていた。



仮装して走る宮浦の団結駅伝

柏島との交流
緑ガ丘地連協が派遣

【三池】緑ガ丘地域連絡協議会（地連協）では一月十五日、主婦会もふくめた合同分会長会議をひらいたが、この会議で来る一月二十四日に柏島労組との交流をふかめるために、約六十五名を派遣することをきめた。

この交流は、さる十二月二十日に三池を激励のため柏島労組行動隊が、バス一台を貸切つて来山したことからはじまる。

柏島の行動隊では、毎月積立てをおこなつているが、積立金がちょうどバス一台貸切る額だけにたまつたため、組合からは一銭の補助もうけずに三池闘争支援へ行こうということがきまり、決行されたのであつた。

この激励団が緑ガ丘へもやつて来て、各分会と交流を深めて帰つたあと、たまたま同月の二十五日に地連協分会長会議がひらかれ、会議の中で〃柏島へ交流に行こう〃と動議が出されたのである。

その結果、闘争中でもあり個人に金銭面で負担をかけることは到底考えられないため、何とか地連協会費から捻出（貸切バス料金）したらということで、大衆討議にかけられていたのであつた。

これが去る十五日の合同会議で決定をみたわけである。

緑ガ丘には地域分会が十二分会あり、交流派遣者も各分会平均五人うち主婦を各分会とも最低一人は入れるということにきまつた。なお引率者として闘生分会の松本副分会長があたることになつており柏島では座談会などをひらき、交流を深めることになつている。

主婦と生活
妥結

三百十八日の長期ストをつづけた主婦と生活労組（五十九名・全印総連）の闘いは、寒もおしせまつた十二月二十九日都労委あつせん案を受諾して妥結した。

妥結の気運が高まり、十二月二十六日に次のような都労委のあつせん案が示された。すなわち「(1)会社は十五人の懲戒解雇を撤回し、非常勤、無給嘱託にする。(2)生活補給金として組合に三百万円を支給し、組合員一人五万円を貸付ける」というもので、これについて連日組合員の討議を重ねた末、二十九日の全員大会で無記名投票の結果、三十九対七、白紙三票で受諾を決定したものである。

あつせん案は中闘全員の首切りを承認するものであつたが、今次闘争の口火となつた一方的配転など組合員の人事異動については「人事異動を行うさいは七日前に組合と当該組合員に通知し、組合側に異議がある場合は協議する」とうたわれ、結局大会はこの点を認めて受諾にふみ切つたもの。妥結について小川委員長はつぎのような談話を発表した。

主婦と生活労組は二十九日都労委のあつせんでストライキをとくことにした。長い争議の体験とわれわれに寄せられた全国労働者の友情を信じて、われわれは自分の立場を守つて踏ん張り高く前進する。

声

三池と生死を共に

三池では、会社がいよいよロック・アウトを出すようすですが、まるで、無茶苦茶に横車を押し通すようなものですたい。

とにかく三池は、好むと好まざるとにかかわらず、最悪の事態になりますが、これに山野としてはどう対決するか。

もちろん、三池を見殺しには出来ません。

山野を含む三鉱連傘下の全山が当然、何らかのかたちで闘争態勢を強化しましようが、それにはいろいろな戦術がありましよう。

三鉱連傘下全山の一斉ストも好し、またストを打つた気で他の五山が、その分だけ余計に強力な資金カンパを三池におくり込むことも好いと思います。

いずれにしても、わたし達は三池と生死をともにする気でいますから、三池の皆さん、しつかり頑張つて下さい。

（山野汽缶場　小山正喜46）

苦しくても負けない

三池の闘争がいよいよ大ごとになりそうだということは、たびたびの情宣を聞いて知つています。

そして、三池が敗けてもしたら私達も一緒に苦しまねばならないこともよくわかります。

三池の闘争をたすけるために、私達も一生懸命にお手伝いをしたいと思いますので、組合でよく考えてもらつてさしずをして下さい私達は、なんぼ苦しかつてもついてゆきます。

（山野炭務　阿部ちよ子49）

三池を勝たせろ

ロツク・アウト強行の非常事態に追いこまれようとする三池の現実は、山野のわれわれにとつても重大事です。

もし、三池がこの闘争に敗れたらどうなる……職制支配の復活強化は眼に見えています。またわれわれは大東亜戦争以前の労働者に逆戻りして、職制にコキつかわれてヘトヘトになるまで働らかされるのです。もちろん、賃金もしぼられるでしよう。

この様に三池の仲間達が、われわれの労働条件を守るための、第一線で闘つてくれているからこそわれわれも真剣に三池闘争を援けるのです。

会社は、あくまでも既定方針通りにロツク・アウトを強行するでしよう。会社も必死です。

われわれもまた必死の勇をふるい起して、三池闘争を頑張り抜く覚悟です。

（山野仕繰　山下由利夫30）

苦しみを分かちて

戦術的な深い考慮から、そういう形になつたのでしようが、とにかく、形の上では苦しい独走態勢で闘つておられる三池の皆さんのことを、山野のわたし達が、無関心であり得るわけがありません

それどころか、譲歩に譲歩を重ねても、なお、交渉を続けられる三池の皆さんに対して、会社はロツク・アウトではねつけようとしているのです。わたしは、そのことを聞きまして、心の底からイキドオリを感じました。

三池の皆さんの闘いを、わたし達は決して他人事とは思いません自分自身の闘いとして、じつと、見守つているのです。

山野のわたし達が、この闘争で果さなければならない役目が種々ありましよう。その中でわたしは、さしあたつて、三池の皆さんが、安心して闘い続けられる態勢を、いつでもとゝのえておかなければならないと思います。

それには物心両面の準備が必要ですが、わたしは生活の苦しみも三池の皆さんと共にわかち合つて闘い抜こうと決心をきめています

（山野鳴生社宅　伊藤しげ子24）

一杯の味噌汁

正月明けの九日でした。私は或る執行委員の奥さんが病気だということを知り、どんな具合だろうかと見舞いに行つたのです。

ところが家ではご主人がせつせとおカユを炊いたり、夕ご飯のお菜をこしらえているのです。子供さんの要求だという、目玉焼きもジユーツと音を立てて焼かれていきます。

私はこのありさまを見て、闘争中で目の回るように忙がしい執行委員の身でありながら、とかく家庭のことはほつたらかしになるのが普通なのに、家庭のことは家庭のこととして嫌な顔もせず働いているこの人の姿を見て、心の中がほのぼのとして来ました。

家庭のしあわせは、職場のしあわせにつながるものです。そして職場のしあわせは必然的に日本の労働者のしあわせになつて行くのです。

家庭のしあわせがなくして、どうして労働者がしあわせになることができましよう。

ご馳走になつた一杯の熱い味噌汁をすすりながら、私はそういうことを考えていました。

そして、こんな人たちが執行部で働いている組合だからこそ、こんなに強く信頼のできる組織が出来上つたんだとつくづく考えました。

（三池　ひまわり一主婦）